

## 地域包括支援センターの職員が認識している地域ケア会議の開催要件について

### ーテキストマイニングによる自由記述の分析を通してー

○ 長崎純心大学医療・福祉連携センター 奥村 あすか (8773)

潮谷 有二 (長崎純心大学医療・福祉連携センター・2675), 宮野 澄男 (同・8744), 吉田 麻衣 (同・8774)

キーワード：地域包括支援センター, 地域ケア会議, テキストマイニング

#### 1. 研究目的

地域包括支援センターは、包括的支援事業等を地域において一体的に実施する役割を担う中核的機関であり、包括的支援事業を効果的に実施するための環境整備として、多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築が求められ、その手法の一つとして、地域ケア会議が位置づけられているということは周知の通りである。

このような状況の中、平成26年2月に長崎純心大学医療・福祉連携センターでは、全国の地域包括支援センター（以下、包括という。）を対象に「地域包括支援センターにおける業務実態等に関する調査（以下、「全国包括調査」という。）」を実施した。奥村ら（2014）は、当該調査から得られた「地域ケア会議の開催要件」に関する自由記述の内容（n=695）を対象に、樋口（2004）が開発したKH Coder（Ver.2.beta.31）を用いて当該データを客観的に分析するための準備作業を行った結果、「事例検討」「地域ケア会議」「顔の見える」「地域課題」「政策形成」等の地域ケア会議の開催要件に係るキーワードを推察するとともに、今後の分析として同義語処理及び複合語の選定が必要になると指摘している。

そこで、本報告では、奥村ら（2014）の指摘を踏まえて同義語処理の分析を行った奥村ら（2015）の研究成果を引き継ぎ発展させるということ視野に入れて、複合語の作成に加え、分析対象となる品詞の選択を行い、包括の職員が地域ケア会議を開催するにあたり、何を必要としているのかについて、具体的に明らかにすることを目的とした。

#### 2. 研究の視点および方法

「全国包括調査」の調査方法は、質問紙を用いた自計式の郵送調査であり、調査期間は2014年2月から同年2月末日であった。調査対象は、全国の包括4,834箇所を対象とする悉皆調査であり、回答者は包括の社会福祉士またはそれに準ずる者とした（回収数は1,217、回収率は25.2%）。テキストマイニングによる分析方法は、「あなた（回答されている方）は、地域包括支援センター圏域において地域ケア会議を開催していくにあたり、何が必要だと思われますか。ご自由に記入下さい。」という問いへの回答であるテキストデータ（n=695）を対象とした。具体的には、奥村ら（2014, 2015）の研究を踏襲し、KH Coder（Ver.2.beta.32c）を用いて、記述統計量の算出及び頻出150語に関する分析、KWIC（Keyword in context）コンコーダンス分析及びコロケーション統計による分析、媒介中心性による共起ネットワーク分析を行い、複合語（タグ）と分析対象となる品詞を選定し、再度、記述統計量の算出及び頻出150語に関する分析、共起ネットワーク分析を行った。

### 3. 倫理的配慮

調査実施に伴う倫理的配慮としては、調査協力依頼文と調査票の表紙に回答は厳重に秘密を守って統計処理を行いプライバシーが外部に漏洩することはない旨を記した。加えて、データクリーニングの際に、調査対象者や調査対象となった包括を特定することができないように必要に応じて、自由記述の文章にマスキングを行った。

### 4. 研究結果（紙幅の都合上、結果の一部についてのみ掲載）

地域ケア会議の開催要件の全体像を把握するために、複合語を選定し、形態素解析を行った結果、総抽出語数は24,263語、異なり語数は1,768語、分析対象となっている語（使用）は1,449語であり、抽出語の出現回数の平均は7.51回、標準偏差は30.55であった。

また、抽出語のうち使用頻度が高い語は、「地域」が651回、「関係」が243回、「ケア会議」が241回、「必要」が235回、「課題」が215回の頻度で用いられており、これらの語が地域ケア会議の開催要件に関する自由記述において多く使用されていることが明らかになった。

さらに、複合語と分析に用いる品詞の選定後の媒介中心性による共起ネットワーク分析の結果、媒介中心性が高い抽出語は「地域」「課題」「関係」であり、これらの抽出語を媒介中心性として、「顔の見える関係」「地域ケア会議の理解」「地域ケア会議の開催」「地域課題の解決」「個別ケースと地域課題」等といったことや、線（edge）による共起関係からは、「地域包括ケアシステム」「能力の向上」「事例検討」「政策形成」「民生委員・児童委員と自治会」等といったことを視認することができた。

### 5. 考察

本研究の結果と奥村ら（2014）との先行研究と比較検討した結果、奥村ら（2014）では「地域ケア会議」「顔の見える」「地域課題」等の地域ケア会議の開催要件に係るキーワードを推察しているが、本研究では複合語と分析対象となる品詞を選定し分析することにより、「顔の見える関係」「地域ケア会議の理解」「地域ケア会議の開催」「地域課題の解決」「個別ケースと地域課題」「地域包括ケアシステム」等の共起関係を新たに推察することができた。

※本報告で用いたテキストデータを対象とする同義語処理による分析結果の詳細については、平成27年7月に開催される日本在宅ケア学会にて奥村ら（2015）として報告予定であるということを付記しておく。

※本報告における詳細な結果については当日配布予定である。

※本研究は、文部科学省の「平成25年度 未来医療研究人材養成拠点形成事業【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成」に係る研究成果の一部である。